



札幌市立篠路西中学校

学校だより

やる気・本気・根気

<http://www.shinoronishi-j.sapporo-c.ed.jp/>

令和7年（2025年）3月14日発行

式 辞

校長 鈴木 隆史

今年は、冬と春が入れ替わる日が続きましたが、少しずつ本来の春を迎えた気がする本日、PTA会長の近藤様をはじめ小学校の校長先生と学校評議員の皆様を御来賓としてお迎えし、在校生や保護者の皆様にもご会合いただき、令和6年度の卒業証書授与式を行えることを大変うれしく思います。

あらためて、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今手渡した卒業証書は、義務教育9年間の終わりを示すものであります。この9年の間には、胆振東部地震により全道で起こった停電や新型コロナウイルス感染症の拡大により、全国で休校措置が取られたり、学校生活だけではなく、日常でも活動が大きく制限されました。私でさえ人生初めての体験が、いくつもありました。その頃の影響は大きかったし、今、普通に出来ていることが、当たり前ではないことを改めて知った出来事でした。ですが、私たちは「喉元過ぎれば、熱さを忘れる」のことわざの通り、そのことを忘れて、今の生活が当たり前だと思ってしまうがちです。

今年、初めてつどいおを借りて全校生徒で実施した「篠路西中大運動会」。本当に嬉しかったし楽しかったですね。創西祭も、生徒の皆さんの輝く笑顔がたくさんあり、その姿を保護者の皆さんにも見ていただくことができました。これらのことは、当たり前ではなく、感謝すべき出来事だと思っています。

そして、いつも「3年生は、学校の顔だ」と話していますが、皆さんは後輩たちの財産になる大変立派な姿を見せてくれました。このような姿が、篠路西中学校の新たな伝統を作っていきます。皆さんにとっても、いろいろな人たちと何かを一緒にやり、一つのものを作り上げる活動は、生きていく上で必ず役に立つ素晴らしい経験だと考えます。今、ここにいる仲間たちと過ごした篠路西中学校の日々を忘れずにいてください。

さて、話は変わりますが、みなさんは、この先、どうやって生きていくのでしょうか。私は60歳になりました。現在の日本人男性の平均寿命は、81歳です。この先の21年間どうやって生きていくのかを私も真剣に考えています。命をいただいたものは、その命を無駄にすることなく燃やし尽くすことが運命です。宇宙の時の流れの中では、100年は瞬きよりも短い時間です。けれど、時間の長さではなく、一人一人が自分の人生をどう充実させて生きたのかが、とても大切だと思います。生きていくのは、楽ではありません。楽しいことも辛いことも当たり前にあります。そして人の数だけ違う生き方があり、違うことが大切なのです。だからこそ、「人生をどう生きるか」という、自分にしか答えを出せない問いに、全身全霊をかけて取り組み、努力し続けてほしいのです。みなさんの人生が、幸せで充実したものになることを願っています。

終わりになりますが、卒業生の保護者の皆様、お子様の中学校ご卒業、心よりお祝い申し上げます。本日で義務教育は終了いたしますが、子どもたちの手は放しても、目と心を離さず、成長を見守り続けていただきたいと思います。皆様と卒業生のご健康とご多幸を祈念して、本日の式辞といたします。

